



◎岐阜縣下に於ける三大起工式

木曾揖斐長良三大川上流改修に伴ふ縣下の支派川改修中最も難問題といはれ流血の一大騷擾事件まで惹起した犀川改修工事は縣當局の誠意と關係地方民の理解と且又政府の援助とが相俟つて茲に圓滿なる解決を遂げ過般開會の臨時縣會に於て滿場一致を以て議決した岐垣國道開設工事と共に菊花薫る容月五日午前十一時安八郡墨俣町地内の長良川と犀川の合流點にある一夜城趾に於て頗る盛大に起工式を舉行せり。

犀川改修事業は總工費二百一十一萬七千九百圓を以て本年度より五ヶ年繼續事業として犀川水系に屬する坂屋川、天王川、中川、五六川、及び犀川の整理改修をなし上流沿岸

の耕地に洪水する汚惡水を排除せんが爲上流本集郡地内に二條の集水路を開鑿する外前記諸川を全部安八郡墨俣町附近長良川新堤内に於て合流せしめ同町より同郡名森村大森に至る延長五千七百メートルの新水路を開鑿して長良川に放流せんとする計畫にして、これが完成の際には揖斐、長良、木曾等の諸大川上流の耕地三千町歩に洪水する汚惡水は完全に排除され年々三十數萬圓の増收を見るに至らん。

當日は稀に見る晴天にして知事以下縣當局關係職員並に來賓數百人の參列の下に式は型の如く開催され、後藤土木課長の齋鉢、王串奉奠、鶴澤知事の式辭、來賓代表内務大臣祝辭(齋藤次官代讀)を初めとし辰馬名古屋土木出張所長、久富縣會議長、岐阜、大垣兩市長の祝辭ありて目出度く閉式し式後墨俣美妓の墨俣踊の餘興あり且又關係町村民十重二十重に式場を取かこみ墨俣町開發以來かつて見ぬ盛況裡に終了せり。

續いて岐垣國道起工式は同日午後二時より大垣市郭町の廣場に於て盛大に舉行され其の起工を祝ふ無慮數千の群衆

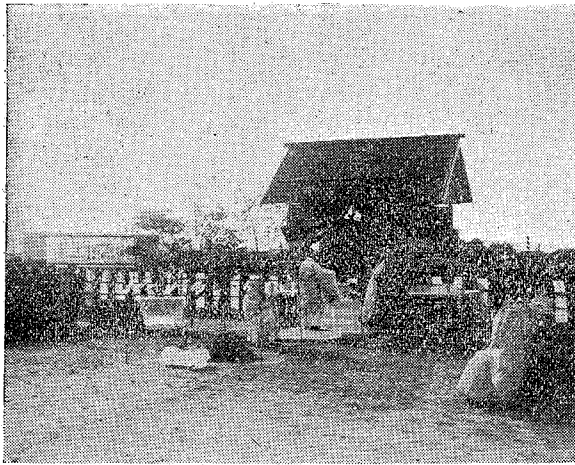
の歡喜に迎へられ知事以下縣關係者並に多數來賓參列せり。

### 式 辭

思ふに經濟界の不況は日に深刻化し都市と農村とを問はず何れも窮境に沈淪し、諸物價の低落各種産業の不振は延ては失業者を簇出し今や社會問題となりつゝあるに鑑み政府又之が對策を講じ縣當局も亦種々攻究を遂げ茲に本事業改築の計畫を樹つるに至れり。

本工事は岐阜、大垣兩市を連絡し延長約三里餘に涉り總工費參百八拾四萬圓を以て本年度より向ふ三ヶ年の繼續事業とし縣下失業救済の對策たると共に一面又地方産業文化の發達上資する所大なるものあらん。

加ふるに本起工式に際し岐阜縣知事、内務大臣祝並に工事概要は次の如し。



岐阜大垣間國道改築ノ計畫成リ茲ニ本日ヲ以テ起工式ヲ舉グ抑々本國道ハ所謂中仙道ニ屬シ東京市ヨリ京都市及ヒ金澤市ニ達スル幹線道路タルト共ニ岐阜大垣兩市間ヲ連絡スル重要ナル道路ナリ而シテ岐阜大垣兩市ハ本縣樞要ノ都市ニシテ風光明媚且ツ史蹟ニ富ミ四時遊覽者絶ヘス殊ニ商工業ハ年ト共ニ發展シ交通愈々繁劇ナ加ヘントス然ルニ此兩市ヲ連絡スル現道踏ハ幅員狭少紆餘屈曲シ爲ニ兩市ノ距離極メテ遠ク加フルニ東海道本線ト平面交叉テナシ更ニ長良掛妻ノ兩川ニ架設セル橋梁ハ幅員狹隘且ツ腐朽甚シク交通上危險ニ頻セルノミナラス輓近自動車交通頓ニ増加シ之カ改築ノ必要ヲ告グルコト急ナルモノアリ而シテ世界的財界ノ不況ハ我國經濟界ニ未嘗有ノ恐慌ヲ來シ不景氣ハ日に深刻ナ加ヘ諸物價ノ低蓉各種産業ノ不振ヲ招來シ都市農村共ニ甚シク窮境ニ陥リ本縣モ亦不況ノ影響ヲ受ケタルノミナラス米籾價ノ暴落ト數度ノ災害ニ遭

式 起 道 國 垣 岐 二 商 工 業 年 年 ト 共 ニ 發 展 シ 交 通 愈 々 繁 劇 ナ 加 ヘ ン ト ス 然 ル ニ 此 兩 市 ヲ 連 絡 ス ル 現 道 踏 ハ 幅 員 狹 少 紆 餘 屈 曲 シ 爲 ニ 兩 市 ノ 距 離 極 メ テ 遠 ク 加 フ ル ニ 東 海 道 本 線 ト 平 面 交 叉 テ ナ シ 更 ニ 長 良 掛 妻 ノ 兩 川 ニ 架 設 セ ル 橋 梁 ハ 幅 員 狹 隘 且 ツ 腐 朽 甚 シ ク 交 通 上 危 險 ニ 頻 セ ル ノ ミ ナ ラ ス 輓 近 自 動 車 交 通 頓 ニ 增 加 シ 之 カ 改 築 ノ 必 要 ヲ 告 グ ル コ ト 急 ナ ル モ ノ ア リ 而 シ テ 世 界 的 的 財 界 ノ 不 況 ハ 我 國 經 濟 界 ニ 未 嘗 有 ノ 恐 慌 ヲ 來 シ 不 景 氣 ハ 日 ニ 深 刻 ナ 加 ヘ 諸 物 價 ノ 低 蓉 各 種 産 業 ノ 不 振 ヲ 招 來 シ 都 市 農 村 共 ニ 甚 シ ク 窮 境 ニ 陥 リ 本 縣 モ 亦 不 況 ノ 影 響 ヲ 受 ケ タ ル ノ ミ ナ ラ ス 米 籾 價 ノ 暴 落 ト 數 度 ノ 災 害 ニ 遭

遇シ爲ニ多クノ失業ヲ生シ縣民ノ窮狀實ニ甚シキモノアリ  
 此秋ニ當リ政府ハ不況對策ノ爲メ之等救濟事業ニ對シ起債許可  
 國庫補助等ノ途ヲ開カル此ニ於テ本縣ハ本國道改築ノ企畫シ斷  
 然之カ遂行ナ期シ本年度臨時縣會ノ協賛ヲ得テ縣費並ニ國庫補  
 助ト岐阜大垣兩市ノ寄附金ト更ニ伊勢電氣鐵道株式會社ノ分擔  
 金等ヲ合シ總工費三百八十四萬餘圓ヲ以テ特ニ失業救濟ノ趣旨  
 ニ於テ本年度ヨリ三箇年繼續事業トシテ此ノ工ヲ起スニ至レリ  
 惟フニ本事業ハ一面失業救濟ノ重要ナル方策タルト共ニ之カ竣  
 功ノ曉ニ於テハ交通上ノ利便ヲ増シ岐阜大垣兩市ノ關係ヲ緊密  
 ナラシメ且ツ將來地方産業經濟ノ發展ニ資スルコト多大ナルヘ  
 ク又軍事上ニ貢獻スル所尠カラサルヘシ庶幾クハ政府當局ノ指  
 導ト關係地方人士ノ援助トニ依リ豫期ノ如ク本事業ノ完成ナ期  
 センコトナ一言所思ヲ述ヘテ式辭トス

昭和五年十一月五日

岐阜縣知事正五位勳四等 鴉 澤 憲

祝 辭

茲ニ本日ヲ以テ十二號國道岐阜大垣兩市間改築起工ノ式典ヲ舉  
 ケラル邦家ノ爲寔ニ欣慶ノ情ニ堪ヘス

抑々本國道ハ東海道中部ト北陸地方トヲ連絡スル重要幹線道路  
 ニ屬シ就中岐阜大垣間ノ如キハ交通上極メテ重要ナル地位ヲ占

ムルニ不拘掛斐長良ノ大川之ヲ橫斷スルアリ殊ニ道路ノ規格構  
 造ハ中仙道ノ舊態ヲ存シ其ノ不完成ナル到底現時ノ交通要求ヲ  
 充ス能ハサルモノアリ今乃チ官民ノ協力ニ依リ財政殊ニ緊縮ヲ  
 要スルノ折柄克ク改築ノ計ヲ樹テ最新ノ技術ヲ應用シテ之カ工  
 事ニ着手セムトス  
 惟フニ本工事ノ完成ヲ見ルニ至ラハ之ニ依リテ交通上ニ至大ノ  
 効果ヲ齎シ地方ノ開發國運ノ隆昌ニ資スル所極テ大ナルモノア  
 ルヘシ唯夫レ地勢ノ關係上施工容易ナラサルモノアルヘク冀ク  
 ハ相率キテ最善ノ努力ヲ竭シ以テ之カ完成ニ努メラレムコトナ  
 一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和五年十一月五日

內務大臣 安 達 謙 藏

工 事 概 要

- 一 改築區間 自 加納町 至 大垣市
- 二 延 長 三里十五町四十七間
- 三 幅 員 岐阜都市計畫道路ニ依ル區間 十三間半  
大垣都市計畫道路ニ依ル區間 六間乃至八間  
其ノ他ノ區間 五間半
- 四 工 費 三百八十四萬二千五百圓

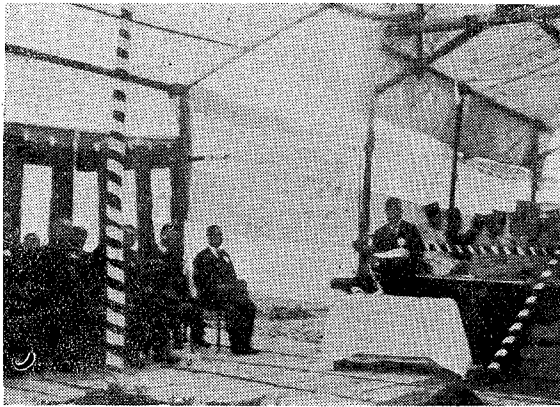
(內鐵道會社負擔金百二十四萬五千二百四十二圓)

五 財 源 國庫補助、起債、地方鐵道會社負擔金  
六 施工年度 自 昭和五年度 至 昭和七年度

(備考) 本道路中長大橋ノミハ地方鐵道ト併用ス

庄川地方道路起工式は本月六日岐阜縣郡上郡白鳥町に於て舉行され朝野の名士をはじめ關係地方有力者數百名參列せり。

因に庄川は源を同縣大野郡莊川村に發し沿岸地方は山岳重疊し千古斥鉞を知らざるを森林に富む而して本地方の交通は僅かに府縣道八幡城端線に依るのみにして而も幅員狭少曲折多く勾配急にして車馬交通に不便なるを以て是等木材の搬出は殆ど此の庄川を利用せり、然るに最近大同電力會社は祖山堰堤を庄川水力會社は小牧堰堤を築造せる爲流水を阻害するありとなし沿岸村民の生活問題として幾



庄川開發道路起工式に於ける澤澤の事式辭

多の紛糾を経たり。茲に於てか兩會社は庄川地方開發の主旨に於て壹百萬圓を寄附すべき旨ありたるを以て縣は之を財源となし本地方開發の施設を講ずる計畫を樹立するに至り。

即ち本幹線道路を改修し自動車交通に適應せしめ交通の利便を増進し以て産業文化の發達を企てり。

當日の内務大臣祝辭(新居事務官代讀)並に工事概要は次の如し。(佐野生)

### 祝 辭

府縣道八幡城端線ハ濃飛越三國ヲ貫通シ交通上重要ノ地位ヲ占メ曩ニ岐阜市ヨリ高岡市ニ至ル重要府縣道トシテ指定セラレタリト雖其ノ構造規格近代交通ノ要求ニ適セス就中白鳥町富山縣界間ハ幅員狭少屈曲甚シク勾配急ニシテ重要府縣道タルノ機能ヲ發揮スル能ハサルヲ遺憾トスル久シ辛ニ庄川水力及大同電力兩

會社ニ於テ地方開發ノ資金ヲ寄附スルアリ茲ニ改築ノ計ヲ内テ  
之カ起工ヲ見ルニ至ル邦家ノ爲洵ニ欣快ニ堪エサルナリ

惟フニ本工事完成ノ曉ハ之カ衷澤ニ浴スルモノ獨リ關係地方ニ  
止マラサルヘシ冀クハ官民協力最善ノ努力ヲ竭シ以テ之カ完成  
ニ勉メラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和五年十一月六日

内務大臣 安達謙藏

### 工事概要

一 改築路線名 八幡城端線(指定府縣道)

岐阜市ヨリ高岡市ニ達スル道路

二 改築區間 白鳥町

三 延長 十六里四町五十八間

四 幅員 白鳥町平瀬間 十八尺  
平瀬鳩ヶ谷 十五尺

五 工費 百萬圓

六 財源 庄川水力 電気株式會社寄附金  
大同

七 施工年度 自昭和六年度  
至昭和八年度

### ○「シートアスファルト舗裝標準

#### 示方書」の發行

本會囑託江森保平君がリードしてゐる、道路研究會は東  
京及其附近に在住してゐる道路關係技術者が集つてゐる  
學術研究團體であつて。内務省を始め復興局、東京府、市  
あたりの道路技師や民間ではセメントアスファルト等道路  
材料製造技術家までを網羅してゐる、權威ある研究機關で  
あるが。其の團結の目的を達する爲に道路舗裝その他の技  
術に向つて眞摯な研究を進め現在では各工種別に委員會を  
催けて毎月一回定期的な會合をして討議の機會としてゐ  
る。

此會で數年前から催けられてゐるシートアスファルト委員會  
で研究の結果今回標準示方を得て、シートアスファルト標  
準示方書を刊行した、近時自動車交通の發達に刺戟されて  
道路舗裝が行き渡るやうに爲つたが、最も良好な成績を擧  
げてゐるのは何と言つてもシートアスファルトである、從

つて之が鋪裝標準を指示して我國道路に普及せしめたいと言ふのが、同會の所望で之を公表するに至つた、本書は四六倍判一七〇頁からなる冊子で内容は右示方書の外英、米、獨の最近示方書を載せその他我國に於ける生きた諸材料を滿載して我國道路技術界をリードすべき好指針である。

### ◎萬國道路會議の概況

十月六日から米國華府に於て開かれた、第六回萬國道路會社には本邦代表者とし且つ本會の代表者として、内務技師藤井眞透氏が列席したことは既報の通りであるが、今回駐米大使より外務大臣に同會議の概況を報告して來た。

本會議は巴里に其の本部を有する常設國際道路會議協會(The Permanent International Association of Road Congresses)の主催にして、且今回は米國にて開催せらる關係上、萬事米國側の肝煎にて米國組織委員會(American Organizing Commission)なるもの事實其の任に當りたるが、會議參加國は五十餘國に及び、各國政府代表者及個人會員の出席者

等併せて三百名に達したり。本邦よりは内務技師藤井眞透氏、鐵道省事務官高田寛氏、鐵道省技師宮本保氏及日本自動車株式會社取締役小川菊造氏の四人、政府代表の資格にて參會し、鐵道技師岩崎實氏は個人の資格にて出席せり。

米國政府は既に一年以前より本會議の準備に取りかかり、道路の設計、材料雜持、道路行政及交通等の各種の問題に於て各國の主なる専門家百七十人の意見を徵し、之を印刷に付して七十六冊の報告書に區分し、之を討議の基礎となしたり。會議の公用語は英語、佛語、獨逸語及西班牙語の四ヶ國語として、右の印刷物等も夫々右の各國語にて印刷準備せられたり。

本會議の起催は大々午後と定められたるか、同日午前當地商業會議所に於て常設國際委員會のみより成る豫會備議を開き、常設國際道路會議協會副會長 E. Chaix 氏議長となりて會計の報告及其の承認等を了し、決て米國組織委員會の會長 Roy D. Charpin 氏及同委員會の事務總長 Thomas N. Macdonall 氏を各々第六回道路會議の議長及事務

總長に選任し、最後に、四年後に開かるべき第七回道路會議は之を獨逸に於て開催せられたき旨の同國代表者よりの招請ありたる處右は直に承認せられ、且決定せられたり。

かくて十月六日午後一時四十五分、華府 Constatitution Hall に於て本會議の發會式を擧げたるが、此の式には各國の外交代表者も亦招待せられ、本使も亦臨席せり。

發會式に於ては國務長官「スチムソン」氏先づ米國政府を代表して歓迎の辭を述べたるが、氏は第六回道路會議に於て表明せらるべき國際協調の非利己的精神こそ將來に於ける世界平和及繁榮の基礎的保證なりと論し、は各國間の協調に付て一國の旅行者が他國の道路規則及標識等を承知すれば一層安全且愉快なるべき旨を述べ、又一國と隣國との道路組織の連絡を保ち得るが如き計畫を樹て得れば觀光等に便宜多く、從て旅客の増加すべき旨を述べ、最後に會議の議長として豫め選任せられたる前記 Roy D. Charpin 氏を紹介せり。

Charpin 氏は米國組織委員會の名に於て歓迎の意を表し、

於て米國政府が道路會議協會に入會したる時より今回の會議開催に至る迄の各種準備を報告し、本會議の唯一の目的は各國間の友情の公道を作るに在りと述べたり。

右二氏の挨拶に對して常設國際協會の Edward chaix 氏外本邦を含む主なる諸國の代表者十八名の答辭ありたり。

議事は七日午前より開始せられたるが、會議は之を二部に區分し、第一部は道路の築造及維持の問題を審議し、第二部は交通及行政問題の討議に當り、兩部共に討議は七日午前、八日午前、九日午前及午後の四回に亘り、十日午後は討議事項決定の總會を開き、夜閉會式を舉行せり。

討議事項は常設國際委員會に於て準備せられたるが右は左の如く區分せられたり。

#### 第一部 築造及維持

##### 第一問

(イ)セメント「使用(之)を更に十五項の小項目に區分す」  
 (ロ)煉瓦若くは其他の鋪裝(之を煉瓦、護謨及石材鋪裝に區別す)

## 第二問

「タール」、瀝青及「アスファルト」の使用に付て最も最近に採用せられたる方法

## 第三問

新殖民地及未開發地方等の新地域に於ける道路の築造

## 第二部 交通及行政

### 第四問

國道財政手段

(イ) 道路築造

(ロ) 維持

### 第五問

輸送即ち他の輸送方法との關係及併用、集合的使用

(Collective Organization) と個人的使用との適用方法

### 第六問

一 大都市其の郊外に於ける交通規則即ち交通標識、道路の計畫及經營並に建築物の建込みたる場所に於ては交通に適する方法

二 各運送具の「バーキング」及「ガレージング」

是等問題の討議の模様及決議等は退て明年一月一日頃印刷完成すべき趣なるに付其の節入手の上送付すべきも別添 Daily Bulletin 中に多少の記事あるを以て右前記 "Reports" と共に併せて送付す。

今回の會議中各參會者は前記討議時刻に該當せざる時刻を利用して米國の道路築造機械の陳列を視察し、又參會者は三班に分ちて悉く自動車にて「マウンドヴアーノン」、「アーリングトン」試験場及「アナポリス」海軍兵學校の三個所に案内して華府近郊の道路を視察せしめ、又大統領及國務長官の「レセプション」等に招待せり。

カクテ會議は十一日の「アナポリス」出遊を以て終了したるが更に十三日より招待旅行開始せられたり。

招待旅行は米國の Highway Education Board に於て計畫したるものにして、其の日程は約二週間と定められ、會議參加者三百名を各百名宛の三班に分ち、第一班は「コネクチカット」、「マサチューセッツ」、「ニューヨーク」、「ベ



ンシルヴェニヤ」、「オハイオ」及「ミシガン」を回遊し、第二班は「ヴァージニア」、「ノースカロライナ」、「サウスカロライナ」、「ジョルジャ」及「フロリダ」を、第三班は「ミネソタ」、「アイオワ」、「イリノイス」、「インディアナ」及「シガン」を巡遊すべきものとす。

此の旅行の目的は世界の道路關係者をして米國に於ける國道の築造、維持及各種斬新なる材料使用の模様を視察せしめんとするものにして、特に第一班に對しては人口稠密なる工業地方に於ける交通頻繁の場所を示し、第二班は亞熱帶地域及農業地域に於ける各種類の道路の状態を觀察すべく、第三班に對しては各種の地形及氣候の變化多き地域に於ける道路の模様を示さんとしたるものなり。

右報告申進す。

會議は以上のやうな概況であつたが、本會代表者藤井眞透君から本會田中幹事に宛て開會當日本邦を代表して左の挨拶をしたと言つて得意がつて來てゐる。

國際道路會議ノ第六回會議開催ニ當リ日本ヲ代表シマシ

テ喜ノ言葉ヲ申述マス、道路工學並道路組織ノ非常ニ進歩セル合衆國ニ於テ本會ガ開カル、コトハ幸福デアリマス、此事實ハ廳テ此處ニ相會シタ諸國ノ道路行政並工學ニ非常ナル利益ヲ齎スベキヲ信ジマス

此機會ニ私ハ合衆國政府並會議ニ御援助下スツタ諸協會ニ對シ衷心ヨリ感謝ノ意ヲ表シマス

エム、藤 井

一九三〇年十月六日

(内務技師 藤井眞透)

以上會議に附議された報告書は、其の最も重要な部分は、本會の別途計畫に屬する「道路資料」に登載してあるから参照されたい、又會議の模様やら結末は藤井氏からの通信を俟つて發表するであらう。